

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援事業所 きぼうっこ山本		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 12 月 20 日		令和 8 年 1 月 23 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	5
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 20 日		令和 8 年 1 月 20 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	令和 8 年 1 月 6 日		令和 8 年 1 月 23 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	5 (回答数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 1 月 27 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・訪問先の状況にも配慮しながら訪問支援をしている	・きぼうっこでの取り組みをお伝えすることもそうだが、学校での支援方法などもきぼうっこの中で共有した方が良いことは、取り入れさせて頂いている。 ・それぞれの場所での支援方法があるが、学習、SSTなど情報共有し、統一した支援ができるようにしている。	・引き続き、訪問先の状況を見ながら、ただ、児童のためにできることを伝えていけるようにしていく。 ・学校と家族の橋渡し役も担えるようにする。
2	・児童自身が困りごとを言えない時も、訪問先の先生や保護者から話を聞き、子ども自身の困りごととして、より良い方法を考えるところ	・学校での困りごとが主だが、本人自身が困っていると思われること(泣いて周りに気づいてもらう・手が出てしまうなど)をどの方法で相手に伝わるかをSSTの中でも練習する機会を持ち、実際の場面で、先生にお手伝いを頂きながら、実施していただけるようにお声掛けさせて頂いている(無理ない範囲で)	・専門的な視点からも先生に方法をお伝えするが、学校のやり方や考え方、方法もあるため、児童にとってより良い方法を見つけて、お伝え出来るようにしていく。
3	・保護者の思いにも寄り添い、学校と家族、本人が必要なことを本人目線で考えようとしているところ	・実際に何が難しくて学校生活で困っているのか、また、本人自身は困っているのか困っていないのか、周りはどうなのかなど、色々な視線で考え、必要なことを療育の中で練習する場面を設定し、知識として知ること大切にしている。	・大人からの目線になりがちだが、本人が困っていることを、大人が助けるだけでなく、自分自身の力で乗り越えていくように、大人が少しの手助けをしながら、本人が困りごとを少しでも解消することができるように取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・今年度、訪問回数が大幅に減ってしまった(定期的な訪問が難しかった)	・人員配置など上手く充てることが難しかった。	・次年度は、計画的に要望に応じて一定回数訪問に行けるようにしていく。
2	・学校からの質問などに対して、適切に助言が出来ていないのではないかと心配	・訪問先での生活や訪問先でのルール、支援の方法などもあるため、そこを意識しすぎてしまうことがある。 ・学校側と事業所の時間が合わず、なかなか先生と時間を取って話をするのが難しい。	・訪問先の支援の方法などもあるため、そこも大事にしながら、きぼうっこでの支援方法を共有する。 ・統一した支援を行い、子ども自身が困らずに生活できるように支援していく。
3	・専門性のさらに高めていくことが必要	・若い職員が多いこともあり、現在まだまだ勉強中である ・さらに専門性を高め、質問などに適切な答えを返すことができる力を身に付ける必要がある	・寄り添った支援も大切しながら、より専門性を高めることに努力していく。 ・コミュニケーション力も養う。